

「まちうた」に「HOPE」（希望）をのせて

2年前に世に出た「まちうた」第一弾のCDの帯には、次のようにその趣旨が記されています。

「まちにはさまざまな表情がある。恋ややさしさや、季節や時間。わたしたちはあなたに伝えたいと思っている。高松ってけっこういいまちなんだよと。聞いてほしい、感じてほしい、そしてできれば歌ってほしい。このまちの歌を…」

「まちうた」とは、高松を舞台にしたポップでおしゃれなまちの歌を作ろうという、NPO法人アーツカウンシル高松の企画に市が助成して始まったプロジェクトです。音楽のジャンルを変えながら、毎年一枚ずつのCDを作成してきていて、第一弾が女性ボーカルのポピュラー曲による「スケッチ・オブ・Tシティ」。昨年の第二弾は、総勢10組の公募アマチュアロックバンドによる「ロック・オブ・Tシティ」。そして、今回発売された第三弾が、地元の誇るアマチュアジャズバンド、SWJO（スウィングン・ワンダーランド・ジャズ・オーケストラ）による「ジャズ・オブ・Tシティ」です。

以前、「音楽の力」でまちが元気になれば、音楽好きとしてこんなにうれしいことはない、と書いたことがありますが、高松の音楽による活性化潜在能力は、私の想像をはるかに超えていたようです。この「まちうた」のCD三部作のいずれもが、楽曲・演奏とも相当に高いレベルで、音楽を十分に堪能できます。

また、5月に行われたサンポートホール高松開館5周年記念、世俗カンタータ「カルミナ・ブラーナ」の公演は、ほとんど地元だけで構成されたメンバーで、これほど水準の高い総合舞台芸術が作り上げられるものかと驚嘆し、大きな感動を味わいました。

「ジャズ・オブ・Tシティ」の中に、SWJOと親交があり、何度も共演している世界的ジャズピアニスト^{あきよし}梶吉敏子さんの名曲「HOPE」が収められています。その曲の冒頭で、トロンボーンの重厚なハーモニーに乗せて読まれるメッセージを最後に記しておきます。

「私たちには夢があります。生まれ育ったこの高松から未来に向け、音楽を通して世界の人たちと感動と笑顔を分かち合いたい。それが私たちの願いです」